

文化構想学科

文化資源コース

文化資源コースとは

文化資源コースは、人間の文化的活動(言語によるものだけでなく、視覚、聴覚を通じたもの、さらに他者とある場を共有すること)の全てが、人間の社会をより豊かにする「資源」であると捉え、これらについて学んでいくコースです。より具体的には美術、音楽、演劇、観光といった文化活動について、実践的な要素も交えながら学んでいきます。

文化は21世紀の日本を支える成長産業となるだけでなく、さまざまな人々との共生を図るための重要な手段です。それについて学ぶことがこのコースの魅力です。

文化について多面的に学び、社会で活躍することを考えている人だけでなく、文化を通じて社会を変えていきたい人におすすめのコースです。

先生の研究

私の研究は演劇に関するものです。その中心になるのは西洋の演劇(主としてフランス演劇)に関するのですが、もう一つは西洋と日本の演劇の比較研究です。この7月にイギリスのRoutledgeという出版社から18世紀の日本の文楽について、西洋演劇的な視点から考察した『Japanese Political Theatre in the 18th Century: Bunraku Puppet Plays in Social Context』という本を出すことができました。これに続いて第一次大戦中のフランス演劇に関する本を書く予定です。その意図は、戦争のような大災害(パンデミックもその一つですが)に対して、演劇がどのように生き延びようとしたのかを探ることにあります。



教授 おだなか あきひろ
小田中 章浩 先生

学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ
高校の時、吹奏楽部の演奏会のポスターやパンフレットの表紙などを作るのが楽しくて、大学ではざっくりとデザインについて研究したいと思っていました。大学で文化構想学概論の講義を受けた中で、自分はデザインの表現方法よりもデザインと社会との関係性に興味があることに気づき、このコースを選びました。

○自身の興味
広報やメディアの歴史です。明治時代までのメディアと言えば専ら紙媒体で、江戸時代には浮世絵が活躍していたそうです。私たちは、今でこそテレビやインターネットでリアルタイムに情報を得ることができますが、そのようなものが無かった時代の宣伝・広告のあり方やそのデザインについて関心があります。

○楽しみにしている授業について
文化資源を地域社会に活用する方法を考え、実際にプロジェクトとして実施する授業です。デイスカッションやグループワークを通して、周りの人と協力して企画を一から作り上げることで、文化資源と社会の関わりを体感して学ぶことができるのがとても楽しみです。

卒論テーマ例

- ・演劇の実践的な研究
- ・比較演劇
- ・美術史
- ・臨床芸術
- ・ミュゼオロジー(博物館学)
- ・観光学
- ・音楽療法

文化資源コース オススメ入門書

『ジャポニズム 流行としての「日本」』(講談社現代新書)

【著者】宮崎克己

【紹介】

日本の浮世絵は幕末に日本が開国すると同時にヨーロッパに紹介され、大変人気のある「商品」となりました。それは当時の西洋の人々の生活様式が変化したこと(当時出現しつつあった中産階級の住居に適した装飾美術に対する需要)がありました。よく知られているように、浮世絵はモネやゴッホのような印象派の画家に大きな影響を与えただけでなく、その発想はアールヌーボーのような装飾美術、さらには雑誌のグラフィックデザインにも受け継がれています。著者は、浮世絵が西洋の人々の空間や色彩、線に対する認識をどのように変えたかを説得力をもつて示しています。さらに西洋における浮世絵の受容は単に美術の領域の現象としてではなく、日本と西洋の双方の側の商業や産業と結びつき、発展していききました。本書は文化資源の持つ力を知るための良い入門書と言えるでしょう。



教員紹介

小田中 章浩 教授 Akihiro Odanaka
演劇史、比較演劇、表象文化論
『Japanese Political Theatre in the 18th Century』(Routledge, 2020)

菅原 真弓 教授 Mayumi Sugawara
日本近世近代絵画史、文化資源学。特に複製媒体(主に版画などの印刷物)と社会背景に関する研究。
『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』(中央公論美術出版、2018、第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞(評論等部門)受賞)

天野 景太 准教授 Keita Amano
観光学(都市観光論・観光メディア研究・ニューツーリズム論)、都市社会文化論
共著『「観光まちづくり」再考』(古今書院、2016)

沼田 里衣 准教授 Rii Numata
臨床音楽学、即興音楽、アートマネジメントなど。
『動いている音楽—社会的課題と結びついた即興音楽の美的戦略に関する一考察—』(『日本音楽即興学会誌』第5巻、2020)